

## 平成25年度のトレセン利用状況

### 1. トレセン機器・物品借用手続きについて

現在は、従来の機器借用願提出による予約システムだけでなく、メールや電話、直接の問い合わせにも対応しています。予約の重複が生じた場合は、できるだけ事前に当事者同士で調整して利用してもらっており、本年度は機器・物品の借用に関しては、特に大きなトラブルなく利用頂いております。ただし、利用状況の把握や早めの調整のためにも、できるだけ機器借用願を活用し、早めに申請して頂くよう、ご協力をお願いいたします。

### 2. トレセン利用状況

施設利用件数については、年々増加の傾向にあります。本年度は特に運動機能測定室、コンディショニング室の利用が前年の2倍以上に増加しています。これは、学内外を問わず、アスリートの測定が増えたことと、学部生、院生による実験およびトレセンのプロジェクトに関連した実験が増加したことが要因となっています（表1）。

表1. スポーツトレーニング教育研究センターの利用状況

利用種別	2013年度 延べ件数(前年比%)	2012年度 延べ件数	2011年度 延べ件数	2010年度 延べ件数	2009年度 延べ人数
運動機能測定室	348 (221.7%)	160	204	-	685
環境シュミレーター室	7 (50%)	14	35	-	-
形態計測室	117 (95.9%)	128	53	-	16
スポーツコンディショニング室	93 (281.8%)	39	65	-	16
スポーツ技術クリニック室	80 (80.8%)	108	37	-	12
学内機器使用	169 (99.4%)	180	307	-	-
学外機器使用(県内)	10 (13.2%)	82	85	-	-
学外機器使用(県外)	56 (207.4%)	28	27	-	-
合計	880 (126.1%)	739	813	305	729

※集計は、4月～翌年2月中旬までに申請されたものを採用。

(2014年2月15日現在)

本年度の測定機器の利用の特徴としては、表1の学外機器使用(県外)の件数が示すように、県外での機器使用が増加しています。これは、大会や合宿中のアスリートだけでなく、一般市民や児童・生徒などを対象とした測定が多かったことによります。そのため、形態計測や身体組成計測、握力計などの筋出力測定関連の機器の利用が増えています。また、トレセン内での機器利用については、運動機能測定室の利用増加に伴ってトレッドミル関連、自転車エルゴメータ関連の利用が増加し、技術クリニック室の利用増加に伴ってBiodex、動作解析関連機器の利用が増加しています(表2)。これらの利用状況の変化を踏まえ、測定規模や環境、および頻度などを考慮し、機器の台数増加やメンテナンスの在り方を検討して参ります。

表2. 測定機器の貸出状況

使用機器名	2013年度 延べ件数 (前年比%)	2012年度 延べ件数	2011年度 延べ件数	2010年度 延べ件数	2009年度 延べ件数
屋外パフォーマンス測定 (ラベック, スピードガン等)	20 (62.5%)	34	44	21	14
屋内パフォーマンス測定 (マットスイッチ, 同期ランプ等)	69 (34%)	209	95	32	14
形態計測 (メジャー, キャリパー, 長座体前屈計等)	85 (207.3%)	46	66	43	18
身体組成計測 (TANITA体組成計, Prosound2等)	97 (142.6%)	71	75	23	3
Biodex	19 (172.7%)	15	18	18	-
Powerlab	43 (110.3%)	42	36	39	11
筋電図	15 (83.3%)	20	10	13	5
その他筋出力測定	130 (158.5%)	91	105	35	16
Vmax	57 (211.1%)	28	26	25	14
HRモニタ	14 (127.3%)	11	18	-	-
自転車エルゴメータ関連	50 (333.3%)	15	39	13	-
トレッドミル関連	21 (700%)	3	4	-	-
その他呼吸循環系測定関連	85 (160.4%)	53	51	18	-
光電管	16 (59.3%)	30	29	-	-
フォースプレート	29 (138.1%)	22	79	23	10
その他動作解析関連	19 (316.7%)	6	31	20	-
備品関連 (ドラム電源, ストップウォッチ等)	25 (113.6%)	22	53	-	17
合 計	794 (116.9%)	718	779	323	122

(2014年2月15日現在)

### 3. トレセン機器についてのお願い

本年度は機器の未返却、破損が数件発生しました。機器の利用は申請した期間をできるだけ厳守していただき、機器の不具合については速やかな報告をお願い致します。なお、機器の破損については、その原因が明らかな取扱い上の不備であった場合、トレセンでは修理手続きを行えないことがあります。その際は使用されたゼミや団体に修理手続きを行って頂きますので、予めご了承ください。また、消耗品については、事前に所属研究室などで準備していただきます様、お願い申し上げます。

文責 福永 裕子